

高雄日本人学校の風

校長 高口 和治

2月18日(火)

中正国小の総務主任が来ました。あちらも、やっと細かなことに配慮をしようということになってきたようです。学校の様子を見てくるように指示があったようです。学校の時間割が気になり、中庭で遊んでいる子ども達をみて、中正では、どこで遊べばいいのかとか、いろいろ気にしてくれています。

中正の校長とは、昨年5月にはしているのですが、私がせっかちすぎたようです。出すタイミングを計っていたのですが、もう、話題を出してもいいようです。

仕事なのですが、どうも相手の気持ちをさかなでることをすると、進みませんし、遅いと引越に間に合いません。ここまで来ても、タイミングが難しいと感じます。

2月19日(水)

27日にある中学部全体の卒業式の練習が始まりました。日本の中学校の卒業式の意識付けは、学校最大の行事というものです。おそらく、日本の「最後はしっかり」とか、「有終の美」とか、終わりを大事にしている気がします。少なくとも私は卒業式は中学校最大の最重要の行事だと思っています。

4階ホールで、全体の流れとお辞儀の仕方とかの練習をしていました。中学生にもなつてと思うかも知れません。できないというか下手な生徒もいます。日本の卒業式は、先生方の話を聞いていると地方によって大きくは違ってないようです。台湾の卒業式とはまったくちがうということを再認識です。

(ついでに、以前も書いたと思います。私達は、修学旅行をしますが、台湾では卒業旅行で、まったく違うらしいのです。台湾人に卒業旅行を説明しようとしても、なかなか説明がいつもつきません。似て非なるものの説明をするのは、難しい。)

2月20日(木)

学校運営委員会による送別会がありました。5人の先生を私が紹介し、本人が話をすることで、会が進みました。学校運営委員会のメンバーは、ご存じのようにすべてボランティアです。しかし、日本でいう教育委員会のかなりの機能を占めています。その方

々からも、送られます。感謝です。帰国する先生のほとんどが、濃い日々をすごしたのか、言葉につまる場面が多く、充実した日々だったのだらうと思わせました。

中学部の卒業式に高雄市教育局の職員が見学をさせてくれということでしたので、後ろの席に座ることでOKをだしました。日本のいろんなことに興味があるようです。

職員室に入るノックが気になって、「日本ではノックは2回だよ」と、高口。職員が反応して「台湾では3回らしいぞ」「世界的には3回だ」「3回はうるさく感じる」「3回だと急がせてる感じがする」「日本では、普通2回だよ」とか、職員が話をしていました。が、『ドアのノックの正式なマナー』をネットで調べてくれた先生がいます。私達の「常識」は違っていました。

正式なノックのマナーというのが国際標準マナーがあり、決められているのだそうです。

2回のノックは、トイレ用

3回のノックは、家族、友人、恋人など、親しい相手

4回以上のノックは、初めて訪れた場所や礼儀が必要な相手

ということで、少なくとも私は2回がおとなしく、催促していないノックだと感じていたので、全て、トイレノックということになります。「うー、慣れ親しんだ2回のノックはどうしようかと・・・」

4回以上のノックの内容であっても、3回に省略はできるとありました。知らなかったとはいえ、毎回、トイレノックをしていたとは恥ずかしい。

ついでの話：

出勤簿に印を押しにきた台湾籍職員が「あれ？今日、もう押してありました。」と手を頭に持っていきました。失礼と知りながら、私はいわゆる『クルクルパー』のサインを試してみました。えっ??という顔をしていました。やはり、台湾にはない、日本のサインでした。「忘記了」ですか？とのこと。「忘れてしまった」のサインは、どうも、『クルクルパー』の『パー』の部分だけらしく、サインをして返してくれました。

似て、非なるもの。かえってややこしい。

